中央公園

左　図書館
右　歴史民俗資料館

海浜部 シバナ群落（天然記念物）

❼野口雨情大島山詩碑
那波　大島山城跡

「那波の大島椿の花は　春の桜の中に咲く」野口雨情が昭和11年相生を訪れた時の作、「播磨港ぶし」の中の一節。碑は昭和60年４月、地元の那波クラブの建立。書は雨情自筆

❽石井直樹歌碑
那波　大島山城跡

「おほぞらにただよふくものしらくものさびしき秋になりにけるかな　直樹」　石井直樹（明治23～昭和11、本名直三郎）は「水甕」の歌人。昭和12年、この地の門弟縁者が建立。

❾野口雨情中央公園詩碑
那波南本町　中央公園

「相生（おう）の港はなつかし港　軒の下まで船がつく」「雲の蔭から雨ふり月は　浜の小舟の中のぞく」野口雨情の作「播磨港ぶし」十五節の中から二節を刻む。書は雨情自筆。

❿佐多稲子文学碑
那波南本町　中央公園

『「ホ、素足のむすめがゆくぞい」と囁くのを聞いた…。この綽名は、何か私にいじらしく思はれた。』　第一次大戦頃の相生を舞台にした小説「素足の娘」の碑。ライオンズクラブ建碑。

⓫半田鶏肋句碑
那波南本町　中央公園

「畦に火を放ち畑打つ男かな　鶏肋」　半田鶏肋（明治30～昭和４、本名伍郎）は那波小学校訓導。ホトトギスに入会、岩木躑躅に師事。秀句を遺して早世した。「鶏肋句集」。

⓬水守亀之助「野火」文学碑
那波南本町　中央公園

「野火燃不尽　春風吹又生」水守亀之助は相生が生んだ自然主義後期の作家。雑誌編集者としても勝れる。愛誦した唐の詩人白居易の詩句の揮毫。

⓭相生市歌碑
相生市役所前庭

「西播磨野に雲青く…」の一節を刻む。作詞の浦山貢（明治32～昭和24）は歌人、自由律俳人。播磨造船に勧め、郷土文化の発展に尽くした。作曲は国立音楽学校教授宮原禎次。

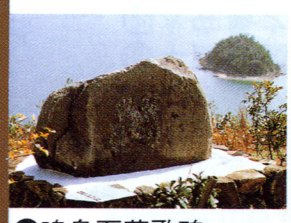
万葉の岬の夜明け

⓮山部赤人万葉歌碑
金ヶ崎　あいおい荘前

「辛荷の島に過る時に山部宿彌赤人の作る歌一首併せて短歌」万葉集巻六。相生湾口の東突端金ヶ崎を「万葉の岬」と呼ぶ。すぐ眼前の三つの小島が辛荷の島である。歌聖人麻呂と並んで万葉を代表する山部赤人の、舟旅望郷の歌の舞台。瀬戸内万葉の故地を一望におさめる。ロータリークラブ建碑。

⓰芭蕉塚と布蟬句碑
古池本町　長池畔

この地の俳人津田布蟬（寛政～天保）の建てた芭蕉塚碑（裏面に「古池や蛙飛び込む水の音」の句を刻む）と、それにつけた布蟬の脇句「おぼろに錆し石婦みの月」の碑が並ぶ。



⓯鳴島万葉歌碑
金ヶ崎　あいおい荘前

「室（むろ）の浦の湍門（せと）の崎なる鳴島の磯越す浪に濡れにけるかも」作者不詳、万葉集巻十二。「室の浦」は室津藻振鼻から金ヶ崎にかけての湾入。「鳴島」は金ヶ崎眼下の君島、金ヶ崎と鳴島の間が「湍門」、磯波のしぶきに濡れる舟行旅愁の歌。書は犬養孝博士。歌碑の立つ周辺には、約千本の各種の椿が群生。

施　設

国民宿舎　**あいおい荘**
電話 07912-2-1413
金ケ崎から瀬戸内海の眺望はすばらしく家島群島や小豆島、よく晴れた日には四国や淡路島もみられる。
宿泊人員168名。名物料理は弁慶鍋、活魚料理。

相生の新名所
ミニ水族館
播磨灘に生息する魚を一堂にあつめる。

行　事

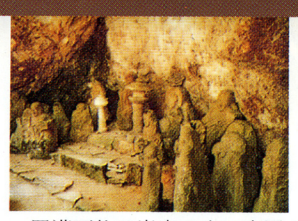
相生ペーロン祭
毎年５月の最終土、日に開催。土曜日は前夜祭として花火大会、3000発の花火が打ち上げられる。日曜日はペーロン祭。海上ではペーロン競漕、陸ではカーニバル等が繰り広げられる。ペーロン祭りが始まると播州路に夏が訪れる。

つばき祭り
３月の最終土曜日と日曜日に開催。椿を題材にした盆栽・鉢植え・切花・生花展をはじめ、植木市や、各種団体の協賛行事が行われる。

お問い合せ　**相生市観光協会**（相生市役所内）
〒678 相生市旭３丁目１番３号 ☎(07912)2-7177
定価 50円

万葉の岬

西播丘陵県立自然公園



羅漢石仏

羅漢石仏は岩窟の中に安置されており、釈迦如来像を中心に、脇侍として、文珠、普賢の両菩薩と16羅漢像が左右に並んでいる。

感状山城跡

建武３年（1336）、新田義貞軍の播州攻めの時に、赤松則祐がこの城にたてこもって戦功をたて、足利尊氏から感状を与えられたので、以来、感状山城と呼ぶようになった。

❶矢野神山万葉歌碑
矢野町森　磐座神社境内

「妻ごもる矢野の神山露霜ににほひそめたり散らまく惜しも」「朝露ににほひそめたる秋山に時雨な降りそあり渡るがね」万葉集巻十、柿本人麻呂歌集出。書は西本願寺本より。

❷秋窓・指月句碑
矢野町瓜生　羅漢の里

「立木如来拝めばすなり秋の声　秋窓」「合掌す手に岩苔の露しづく　指月」　芦田秋窓（子規門）とその高弟岡田指月の師弟句碑。指月主宰「白扇」矢野支部会員が昭和32年建立。

❸福田眉仙筆塚
矢野町瓜生　羅漢の里

福田眉仙（明治８～昭和38）は矢野町瓜生に出生。橋本雅邦に師事、岡倉天心の日本美術院創設に、横山大観、下村観山等と参加し、南画を基調とする独自の画境を築いた。

❹青木月斗句碑
矢野町瓜生　芳賀医院

「くろぐろと山が囲める夜長かな　月斗」　青木月斗（明治12～昭和24）は、俳誌「同人」主宰。昭和11年、芳賀邸での句会で、「秋の夜」と題して詠んだもの。

❺水守亀之助「小さな菜畑」文学碑
若狭野町下土井

水守亀之助（明治19～昭和33）生誕の地文学碑。祖母を題材とする出世作「小さな菜畑」の一節を刻む。碑の位置は、祖母が起居した稲荷堂の跡。

❻和泉式部旧跡碑　若狭野町雨内

「苔むしろ敷島の道に行きくれて雨の内にしやどり木のかげ」　和泉式部は平安朝の女流歌人。書写山参詣の帰途、娘の小式部を若狭野に訪ねる式部伝説の地。